第３回 人文・社会科学系研究推進フォーラム

地域と共に新しい“ジンブン”力を創造する人社系研究の展開

第３回フォーラムのテーマ「地域と共に新しい “ジンブン” 力を創造する人社系研究の展開」の “ジンブン” とは、沖縄の言葉で「生きる知恵」を意味します。我々は日々多くの社会的課題に直面しますが、これら課題は一朝一夕には解決しません。そこでは、科学・技術の知識だけではない、人間の知恵の力（“ジンブン” 力）が求められます。こうした求めに対し、大学は、研究者は、どのように応じてきたのでしょうか、そしてどのように応じてゆくべきなのでしょうか。本フォーラムでは、地域社会が抱える社会課題の解決や、新たな価値創造と実践に向き合っている研究を紹介しつつ、学術界それ自体が内包する課題もふくめて、人文・社会科学系研究の新たな可能性について議論します。

日　時：**2017**年**3**月**3**日（金）13:30-18:00
場　所：国立大学法人 琉球大学
　　研究者交流施設・50周年記念館
定　員：50名（事前ウェブ申込、先着順）
参加費：無 料（情報交換会 会費3,000円）
主　催：琉球大学研究推進機構研究企画室
共　催：京都大学学術研究支援室
　　筑波大学 URA 研究戦略推進室 / ICR
　　大阪大学経営企画オフィスURAプロジェクト
　　早稲田大学研究戦略センター

＜ウェブ申込・問合せ先＞
琉球大学研究推進機構研究企画室
http://www.res.lab.u-ryukyu.ac.jp
ura@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
098-895-8486
担当URA 高橋

人文・社会科学系研究推進フォーラムとは

人文・社会科学系の研究にかかわる研究者と URA（大学・研究機関におけるリサーチ・アドミニストレーター）、事務系職員、行政機関・資金配分機関の関係者等がともに議論し、考え、行動することで、互いにエンカレッジしながら、より良い研究推進のあり方を模索するためのフォーラムです。日本の URA が組織の枠をこえてつながり「人社系研究に対して自分たちは何ができるのか」と活発に議論するなか、こうした場が生まれました。

プログラム

13:00	受付開始（開場）
13:30 -13:35	開会の挨拶
13:35 -14:00	基調講演 西田 睦（琉球大学理事・副学長） 「地域に貢献する人社系学問の可能性」
14:00 -15:00	事例紹介 貴志 俊彦 教授 （京都大学 東南アジア地域研究研究所） 「東アジア史研究の潮流と地域へのかかわり」 稲場 圭信 教授（大阪大学大学院人間科学研究科） 「あらたな連携を生みだす社会科学の力：災害救援マップの取り組みを事例に」 志田 泰盛 准教授（筑波大学人文社会系） 「古典学分野の国際連携と技術イノベーション」
15:00 -15:15	休憩
15:15 -17:15	地域・社会の課題に取り組む人社系研究のためのパラレル・ワークショップ 《セッション１》 「グッドプラクティス事例集作成：個別プロジェクトのプロセスを共有し、掘り下げよう」 《セッション２》 「キックオフ・ミーティング！：人社系研究の活かし方・伝え方・研究力の測り方を考えよう」
17:15 -17:30	休憩
17:30 -18:00	振り返り・閉会の挨拶
18:30 ~	情報交換会（会費 3,000 円）

西田　睦（にしだ　むつみ）
琉球大学理事・副学長（研究・企画戦略担当）、研究推進機構長、研究企画室（URA 室）長

農学博士（京都大学）。専門は海洋生物学、分子系統進化学。東京大学大気海洋研究所長を経て2013 年より現職。DNA 分析を通じて水圏生物とくに魚類の多様性進化について研究してきた。編著書に『海洋の生命史―生命は海でどう進化したか』（東海大学出版会、2009）他、著訳書多数。

貴志　俊彦（きし　としひこ）
京都大学 東南アジア地域研究研究所 副所長 / 教授、研究支援室副室長

日中文化交流史、東アジア情報・通信・メディア史研究。島根県立大学教授、神奈川大学教授、京都大学地域研究統合情報センター教授などを経て、2017年１月より現職。日本学術会議連携会員などを兼任。著書に『日中間海底ケーブルの戦後史』（吉川弘文館、2015）、『東アジア流行歌アワー』（岩波書店、2013）、『京都大学人文科学研究所所蔵華北交通写真資料集成』（編著、国書刊行会、2016）など。

稲場　圭信（いなば　けいしん）
大阪大学大学院人間科学研究科 教授

東京大学（文）卒、ロンドン大学博士（宗教社会学）。ロンドン大学、フランス社会科学高等研究院、國學院大學、神戸大学を経て、2010 年大阪大学准教授となり、2016年より現職。著書に『利他主義と宗教』（弘文堂、2011）、『思いやり格差が日本をダメにする』（NHK出版、2008）、Ruben Habito & Keishin Inaba eds,『The Practice of Altruism』（Cambridge Scholars Press、2006）など。

志田　泰盛（しだ　たいせい）
筑波大学人文社会系 准教授

インド古典学。いわゆる「インド哲学」分野を専攻し、バラモン教の宗教哲学文献の原典校訂を手がける。'15年に筑波大学に着任以来、ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所との連携プロジェクト「海外教育研究ユニット招致プログラム」のプログラム・マネジャーとして国際共同研究や本学学生の海外派遣を企画運営している。

会場：国立大学法人 琉球大学　研究者交流施設・50 周年記念館
（沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地）

- モノレール首里駅からバス琉大快速線 94 番；附属小学校前下車（約 20 分）、徒歩10分
- 那覇バスターミナルからバス 97 番；琉大東口下車または、98 番；琉大北口下車（1 時間 2～3 本程度、約 40 分）、徒歩 20 分
- モノレール首里駅からタクシー（約 20 分、約 1500 円）
- 那覇空港から高速バス111番または152番（1時間に1本程度、約40分）琉大入り口下車後徒歩 20 分
- レンタカー 那覇から約 20 分、会場に駐車場有

※ 参加受付後、ロジスティックの詳細な案内をお送りします。

（表）琉球張子 / 土人形：琉球大学博物館（風樹館）所蔵

沖縄の言葉で玩具のことを「イーリムン」という。沖縄では、旧暦の五月四日は「ユッカヌヒー（四日の日）」と呼ばれ、戦前は首里や那覇の港で「イーリムンイチ（玩具市）」が開催されていた。この日は子供たちの厄日とされ、玩具を買い与えて喜ばせることで厄を払ったといわれている。「イーリムンイチ」に並ぶ玩具も、魔除けや縁起を担ぐものが多かった。